

◎ 桜丘、桜丘南の各町会エリア

会場：桜丘区民センター 日時：8月5日（火） 午前10時～

| | |
|-----------|---|
| 町会 | <ul style="list-style-type: none"> ・5年ぶりに避難所運営訓練を実施し、町会と学校関係者（PTA、おやじの会、おやじOB会など）、地域関係団体が連携した組織を立ち上げ、若い世代を取り込んだ運営ができた。 ・若い世代を取り込むには、日ごろからのコミュニケーションが大切。顔見知りが増えることにより、防災活動に繋がる。 ・町会では農大とも協定を結び、11月の訓練に毎年20名ほどの学生が参加している。 ・町会では、学校2か所の避難所運営を担っている。今後若い世代（農大生、中学生など）を巻き込んだ運営を検討したい。 ・子どもみこしなどの地域行事（祭事）に対して、学校の協力が得にくくなっている。 ・子どもが集まるイベントや地域の方が多く参加するイベントに、防災を絡めていく工夫が大事である。 ・町会とNPOなどが協力して、小学校中学年を対象としたまちについて学ぶ絵本を作成している。 ・町会では今年度から月1回のかわら版を発行している。 ・年8回の防犯パトロールを実施し、ここでも顔見知りを作るきっかけとなっている。 ・町会では防犯カメラを設置しているが、町会員の減少もあり、金銭的な負担が大きい。➡（学校関係者から）町会が設置していることを知らない人が多いのでは？町会で設置していること知れば、協力してくれる若い世代もいるのではないか。 ・町会の様々な取り組みについて、知ってもらう機会や広報の工夫を考える必要がある |
| 民生委員・児童委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・区が推奨している在宅避難は、『情報共有』がカギとなる。桜丘は経堂まちセンからまちセン管内で一番離れているため、情報伝達訓練が重要になる。 ・10年前の避難所運営は町会が主体で、PTAは委員にはなっていなかった。 ・子どもが私立小・中に通うと、地域との繋がりが希薄になる。子どもたちを含めて、そうした方々にどのように町会活動や防災訓練などの地域情報を伝えるかが課題となっている。 ・地元の方でないと地域との繋がりを築くのは難しい。一方、新築の戸建て住宅やマンションが増えているので、その方々をどう地域活動に巻き込んでいくか。 ・児童館では、様々な世代が交流しながら集える空間となっているので、顔見知りを作る重要な場所になっている。 ・特に若い世代が地域に割く時間が少なくなっている。町会や民生・児童委員もデジタルやSNSなどを活用して行く必要がある |
| 学校関係者 | <ul style="list-style-type: none"> ・おやじの会は、子どもと楽しく過ごすことメインに運営しているため、地域に関わることは難しいと思う。また、町会が行っているイベントを知らないで防災活動に関わるのは厳しい。 ・地域との関わりについては、イベントなどを通して互いにコミュニケーションを取ることが大切である。 |